

参考資料

番号 1

企画財政課

令和元年度 燕市一般会計(普通会計)決算の概要

【決算額内訳】

区 分	令和元年度	平成30年度	比 較	主な要因
歳 入	352億5,136万2千円	351億6,243万円	8,893万2千円	【歳入】 地方特例交付金 + 2億3,370万3千円 国庫支出金 + 2億4,713万3千円 寄 附 金 + 25億6,781万円 繰 入 金 ▲ 6億 564万9千円 市 債 ▲ 20億8,160万円
歳 出	341億5,286万1千円	344億7,322万9千円	▲3億2,036万8千円	
形式収支	10億9,850万1千円	6億8,920万1千円	4億 930万円	
翌年度繰越財源	9,931万2千円	1億2,463万5千円	▲ 2,532万3千円	
実質収支(繰越金)	9億9,918万9千円	5億6,456万6千円	4億3,462万3千円	
単年度収支	4億3,462万3千円	▲1億3,384万6千円	5億6,846万9千円	【歳出】 人 件 費 ▲ 9,894万8千円 扶 助 費 + 3億3,533万2千円 投資的経費 ▲ 22億8,123万8千円 物 件 費 + 7億6,523万円 積 立 金 + 7億1,135万8千円
積立金+繰上償還	4億7,356万1千円	10億4,651万8千円	▲5億7,295万7千円	
積立金取崩額	7億2,952万7千円	7億9,130万1千円	▲ 6,177万4千円	
実質単年度収支	1億7,865万7千円	1億2,137万1千円	5,728万6千円	
財政調整基金残高	24億6,460万9千円	27億2,057万5千円	▲2億5,596万6千円	

令和元年度燕市一般会計(普通会計)決算は、歳入が前年度比8,893万2千円増の352億5,136万2千円、歳出が3億2,036万8千円減の341億5,286万1千円で、形式収支は10億9,850万1千円であり、形式収支から翌年度の繰越財源を控除した実質収支(繰越金)は前年度比4億3,462万3千円増の9億9,918万9千円となりました。また、実質収支の増減額を表す単年度収支から財政調整基金の積立や取崩額等を加減した実質単年度収支では前年度比5,728万6千円増の1億7,865万7千円となりました。

なお、財政調整基金残高は、前年度末から2億5,596万6千円減の24億6,460万9千円となっています。

【令和元年度決算のポイント】

歳入においては、ふるさと納税の大幅な増加により自主財源が増加し、大規模な普通建設事業の完了に伴う市債の減少などにより依存財源が減少したことで、平成23年度以来8年ぶりに自主財源が依存財源を上回っています。歳出においても、ふるさと納税の返礼品等の物件費や基金積立金の増加に対し、普通建設事業等の投資的経費が減少しています。財政構造の弾力性を示す経常収支比率につきましては、市税は堅調に増加しているものの地方交付税の減少などによる経常一般財源等や臨時財政対策債の減少に対し、公債費や幼児教育・保育無償化及び私立保育園の開園による扶助費の増加などにより、平成30年度の90.5%から92.0%と、1.5ポイント悪化しています(本指標にふるさと納税等寄附金は算入されません)。

【令和2年度以降の財政動向】

- ◎新型コロナウイルス感染症の影響による市税をはじめとした歳入の減少や感染予防などの対策に必要な歳出の増加
- ◎財政調整基金残高の減少 ⇒ 令和2年度7号補正後:10億2,158万円(前年度末残高との比較▲14億4,302万9千円)
(8号補正以降、繰越金の確定や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の二次配分の内示を受けて積み戻していく予定)
- ◎普通交付税の合併算定替段階的縮減 R01:▲70%(3.6億円) ⇒ R02:▲90%(5.6億円) ⇒ R03以降:▲100%(6.2億円 ※R02ベースで計算)
- ◎公債費の増加 ⇒ 令和4年度まで増加が続く見込み